

分苑たより

なごみ

大本
名古屋分苑

分苑長

皐月 月次祭挨拶

サルートン

皆様こんにちは、いかがお過ごしでしょうか。

本日は皐月、月次祭に皆様と一緒に参拝させて頂き誠にありがとうございました。

四月二十六・二十七日は誠心会で綾部にて献勞をさせて頂きました。

献勞をさせて頂いた場所は金龍海の各島々でスギナの伐採をおこないました。

また翌日は、みろく大祭の参拝者の方に綾機平から綾機神社のモックアップで、二年後の綾機神社が実際に建造される位置まで歩けるように、大きい石、鉄筋の切れ端等を処分して凹凸の転圧を施しました。

五月三日、名古屋分苑皐月、月始祭を終えて亀岡へ向かって出発しましたが、高速道路

は渋滞もなく無事、亀岡に着いたしました。

夕拝には間に合いませんでしたが、全体リハーサル前の夕食は頂けました。

五月四日、教主生誕祭があり、午後からの全国愛善歌奉納大会では参加チームが熱唱され、名古屋分苑は救霊を奉納いたしました。

五日、みろく大祭祭典後に節分人型功勞者表彰があり名古屋分苑から二十五年表彰で小林清人様、四十五年表彰で石原松生様がそれぞれ教主さまより直接記念品をお受け取りになりました。

分苑への記念品は持ち帰っていますが、千体以上五年の方が二名おられます。

森明人様と川地貴子様です。挨拶の終了後に表彰式を行わせて頂きます。

今回のみろく大祭青年部奉仕団の中に、堀優太君・加祥

天斗君の顔があり会場の解体整理に励んでおられました。

穴井青年部長は今回、青年部のご奉仕者が多く喜んでおられました。

また、大祭に携わって頂いた方達お疲れ様でした。

今月二十五日には、東海教区、青松会錬成道場が三河本苑を会場に開催されます。

六月は二十二日に教本二級認定講習会を行います。既に東海教区には案内を発信しています。

また、以前受講された方で二月の教本三級講習会に三名の方達も参加していただきました。締め切りは六月十五日です。受講される方は講話実習として五分間のスピーチが必須ですので、事前に「大本の使命・霊界の実在・信仰と生活」から選択して講話の準備をして頂きますようお願いいたします。

みろく大祭の教主さまご挨拶のなかで愛善歌悠久の歌詞を拝読させて頂きたいと思えます。

行事報告

●月始祭

五月三日(土)

参拝者	十一名
斎主	天野 芳幸
祭員	妹尾 正治
祭員	畠山 茂
進行	日比 達朗



●月次祭

五月十八日(日)

参拝者	三十三名
斎主	近藤 哲史
祭員	妹尾 正治
祭員	堀 健太郎
祭員	日比 達朗
裏方	飯田 和彦
典礼長	小林 清人
伶人	飯田 直美
伶人	佐古 美鈴
伶人	長谷川 美枝
伶人	伊藤 恵美子
進行	伊藤 久仁男



●誠心会活動報告

名古屋分苑誠心会は四月二十六日・二十七日(土日)の両日、綾部の梅松苑、綾機平に於いて献労作業を行った。

初日は金龍海周辺の清掃、大八洲神社、杵島・冠島神社、塩釜神社のお宮の清掃、草刈り等を行った。



二日目はみろく大祭時の綾機神社モックアップ(立面図)見学者のための通路の地ならし、障害物の撤去作業等を行った。

参加者

高嶋善雄 日比達朗
小鹿正光 鈴木克彦
小林清人 畠山茂 報告



●海津市松植樹地 献労作業

四月二十七日(日)に、草刈献労を伊藤久仁男さん、森満政さん、山田謙三の三名で朝九時半に集合して行った。春の爽やかな晴天に恵まれ、大変楽しく作業を行うことができた。

最近、草刈りをされたよう

で、草はあまり伸びておらず、少し伸びた草を刈る程度で楽に草刈りを行うことができた。松の剪定を兼ねて分苑松の採集を行ったが、二百本採集することができ、一回分の松の賄いができた。この時期、松の新芽が沢山出ており、この新芽が良い枝に育ってくればと願っている。石ころが沢山あり、石のかたづけも行った。

行事予定

六月十五日(日)

月次祭 午前十時半より

六月二十二日(日)

教本二級認定講習会

六月二十八・二十九日

特任研修会(名古屋分苑)

七月五日(土)

月始祭 午後一時半より

じいじの道草雑話

【じいじん家(ち)】

特任宣伝使 妹尾 正治

じいじん家(ち)は七十六歳の夫婦と十五歳の猫(名前はメー)の三人暮らし(二人と一匹)である。

最近やたらとメーがうるさい、朝一番のニャーはチュルチュルの催促、次は「外へ出してくれ!」と首輪の催促だ。紐で外に繋いで十分もしない内に「家へ入れろ!」今度は「おやつはまだか!」「外へ出たい!」まるで徘徊老人の様だ。

満腹中枢が壊れたのか、食べ過ぎて所かまわずグツグツしているが暫くすると又猫なで声でご飯をねだってくる。

ネットで猫年齢を調べてみると、十五歳は人間の七十六歳と書いてある『おーい母さん!家は三人とも七十六歳だ!』

近頃は「忘れるといけない」と、メモった用紙が見当たらない「さつきまで書いていた鉛筆は何処へ行った?」

「ここへ来たのは何をしに来たっけ?」「携帯が無い、ちよと電話をかけてくれ」と失せ物探しの毎日である。

日直の日なんかは、車の前まで行って「ドアが開かない?カギが無い」と玄關まで戻り『ハンカチ持った?』と聞かれ靴を脱いで部屋に後戻り、『もう!子供より世話が焼けるんだから!』『財布は?弁当は?携帯・カバン・祭服は?』とチェックが入る。これも奥さんの愛情表現の一つと受け止めルンルン気分が分苑へ車を走らせる。

老いるのも楽しいもんだ、毎日が猫の世話に追われ、探し物で右往左往、そしてセリフが聞き取れないテレビドラマで時間をつぶし、猫と枕を並べて眠りにつく。

じいじん家(ち)はハッピーに満ち溢れている。

